

一球通信 vol.150

*****コンテンツ*****

1. 秋季リーグ戦戦績
2. 令和元年度 秋季総会のご案内
3. 広商交流 50 周年企画
 - 〔1〕 OB・OG より
 - (1) 飯島富士夫様 (S51 卒)
 - 〔2〕 プレーバック交流史
 - (1) 久木田義雄様 (一橋大元監督)
 - (2) 児島正治様 (広商 OB)

1. 秋季リーグ戦戦績

10/5 (土) vs 東京都市大学 第2節第1回戦

6-7● (10回以降タイブレーク)

一橋	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	6
都市	0	0	0	0	0	2	2	0	0	3×	7

【投】木下 (5回) →鈴木 (3回) →大田 (2回)

〔三〕阿部

〔二〕高崎、木村

10月6日(日) vs 東京都市大学 第2節第2回戦

7-1●

都市	0	0	0	1	1	1	1	0	3	7
一橋	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

【投】佐藤 (4回) →木下 (4、1 / 3回) →鈴木 (2 / 3回)

10月20日(日) vs 東京都市大学 第1節第3回戦

10-3○

一橋	0	1	0	0	3	0	0	1	5	10
都市	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3

【投】木下 (4回) →佐藤 (5回)

〔本〕本多 (2回ソロ)

畠山 (7回ソロ)

10月6日の試合により、東京都市大学の4部優勝及び入替戦出場が決定致しました。

4年部員の最後の大会で優勝を逃したこと、入替戦へと進めなかったこと、非常に悔しい結

果となりました。OB・OGの皆様より秋季リーグに向け温かい言葉を数多く賜りまして、誠にありがとうございました。

優勝校は決定しましたが、今チームの試合は残り2試合が残っております。ぜひグラウンドまで足を運んで頂けると幸いです。

詳しい試合情報は東都大学野球連盟公式ホームページをご参照ください。

<http://www.tohto->

[bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=02&LEAGUEID=04](http://www.tohto-bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=02&LEAGUEID=04)



2.令和元年度一球会秋季総会のご案内

先日、OB・OGの皆様には一斉メールにてご連絡させて頂きました通り、11月22日(金)18時30分より如水会館にて令和元年度秋季総会を開催致します。

昨年度7000円であった会費を変更し、今年度は**4000円**の会費のご案内致しております。ご都合のつく方はぜひご参加頂けますと幸いです。

以下、一斉メールと同様のご案内を掲載させて頂きます。ご一読のほど宜しくお願い致します。

一球会会員
OB・OG 各位
一橋大学硬式野球部

令和元年度一球会秋季総会のお知らせ

拝啓 晩秋の候、先輩諸兄におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は現役部員のために多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。令和元年度秋季リーグ戦を、4部リーグにて4部優勝、3部昇格を目指し臨みましたが、力及ばず4部2位、悔しくも4部残留が決定致しました。来春のリーグ戦にてこの雪辱を果たすべく、部員一同全力を挙げて練習に取り組んでいく次第ですので、引き続きご声援、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

つきましては、令和元年度秋季総会についてお知らせいたします。今回は、如水会館にて11月22日(金)に開催いたします。ご出席のご連絡はメールかFAXにて11月11日(月)までにいただきたくお願い申し上げます。なお、大変恐れ入りますが、ご勤務先・ご自宅住所・メールアドレス等を変更された場合には変更後の内容を併せてご連絡いただきますようお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、以下までご連絡ください。

部携帯：090-9385-7015

E-mail：hit.u.bbc.mg@gmail.com

敬具

記

日時 令和 元年 11 月 22 日 (金) 18 時 30 分より

場所 如水会館 14 階 記念室(東西合同)

(住所) 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番1号

(地下鉄東西線「竹橋」駅より徒歩5分)

(電話) 03-3261-1101

会費 4,000円

以上

4. 広商交流 50 周年企画

〔3〕 OB・OG より

(1) 飯島富士夫様 (S51 卒)

〔4〕 プレーバック交流史

(1) 久木田義雄様 (一橋大元監督)

(2) 児島正治様 (広商 OB)

<広商との交流 50 周年に寄せて>

【思い出の一枚・飯島富士夫 (S51 年卒)】

■思い出の一枚；昭和 48 年 12 月末日・冬休みに行った授業の飯島クラスの記念写真

この写真は、12 月の約 1 週間午前中に野球部の 1.2 年生 (60 名強) を私の同期 4 人で分担して授業を行った時の、私のクラス 2 年生 20 名との記念写真です。同期 4 人は 12 月中旬～1 月上旬までの約 1 か月選手の家で宿泊し家庭教師しながら野球づけの毎日を送りましたが、この 1 週間は午前中教室で授業を行い、午後練習に参加というハードなスケジュールとなりました。

飯島は川本選手、佐治さんは能美選手、高橋進さんは信川選手、山口さんは大利選手の家にホームステイしました。大利選手 (甲子園決勝でサヨナラスクイズを決めた) は 3 年生で受験直前でしたが山口さんの熱い指導もあり見事立教大学に合格しました。

私のクラス 20 名は今でも名前と顔が殆ど一致します。授業だけでなく 1 か月間練習を共にしたチームメイトとして印象に残っています。川本さんと仲の良かった能美さん、信川さんなど、「かつぽん、のみすけ、のぶ・・・」愛称が耳に残っています。授業の内容は殆ど覚えていませんが、教室での授業は貴重な経験となりました。懐かしい思い出です。



■この年（昭和 48 年）の広商は、金光主将のもと佃・達川のバッテリー中心の守りの広商野球で、春の甲子園は江川の作新を準決勝で破って準優勝、夏は大利選手のサヨナラスライズで静岡高校に勝って全国優勝している。夏の甲子園期間中に、一橋野球部が広商合宿を行ったが 1.2 年生が交代で残って練習の相手をしてくれました。夏・冬とも広商合宿では多大なご協力をいただいております、冬のご家庭教師や授業で少しでもお返しをしたいというのが当時の思いでした。

■川本幸生さん（S 48 年優勝時の 2 塁手、S 63 年優勝時の監督）との交流

< S 48 年冬のホームステイ >

- ・川本さんとは 1 か月市内のマンションで生活を共にしました。家庭教師としては、1 年後の受験（東京の有名私大なども志望）に向けて科目を絞り込み、参考書を一緒に買いに行きました。受験勉強というよりは、日常の勉強の仕方や受験のコツなど体験的な話をして、受験に備える指導になりました。
- ・夜は川本さんの部屋で野球談議をすることが多く、春夏甲子園での裏話や江川攻略法、川本さんのプレー（佃投手の投球に合わせた守備位置他）、高校選抜での韓国遠征時の話などで盛り上がりました。高校選抜では江川（法政・巨人）の腰回りの大きさ、植松（法政・阪神）の柔らかなリストでのシャープな打撃などに感心していたのを覚えています。
- ・「内野手はグラブをグラウンドに着けて擦るように動き、捕球する時に上げて捕る」「グラブが上から捕ることはない」との話が印象に残っています。

< 卒業後もときどき連絡を取って >

- ・卒業後も受験で上京した時に試験終了後に慰労の食事、交流 20 周年記念交換会でお会いするなど、時々会う機会はありましたが、広商の監督になってからは甲子園での活躍や 10 数年続いた NHK の高校野球解説など、もっぱら TV で拝見し、熱くなっておりました。
- ・昭和 63 年 5 月、仕事で広島に出張した時にグラウンドに川本監督を訪ねました。良いチームができていると手ごたえを感じているようでした（夏の甲子園で全国優勝）。夜は、畠山校長・川本監督・大利氏他と八丁堀で会食し旧交を温めました。
- ・その後は、時々電話で話をしましたが、NHK 高校野球解説では甲子園大会の前にも全国の地方大会を視察に行くので年間で相当な日数を行脚していたとのことでした。2007 年に病気で監督を退任したので数か月後に会社に電話しました。呂律もはっきりしていたので「元気そうで安心した」と話しましたがリハビリは大変とのことでした。

【プレイバック交流史・一橋久木田さん広商野球部100年史寄稿】

県立広島商業野球部百年史に寄せる

一橋大学硬式野球部

監督 久木田 義雄



はじめに伝統ある広島商業百年史に寄稿させていただく光栄を感じたいと思います。

広商と一橋大の交流は畠山圭司先生が1968年に国内留学されたおり、当時の野球部の監督を務めて下さったことに端を発した、30年の長きにわたる東京の国立大と地方の県立高校との野球を通じて結ばれた極めて珍しい事例であります。私はこの交流が始まる8年前の1960年に卒業したため、昨年まではOBの一人として毎年現役の学生がお世話になっていることは存じてはいたものの、その実態については詳しく認識しておりませんでした。しかし昨1999年7月OBとして初めての監督に就任し、年末の数日一年生部員を中心に10名の現役部員が参加している広商の練習をはじめて見させていただきました。そこで展開された関係者の方々の心のこもったご指導、ご配慮に深く感動し、感謝の念を禁じ得ませんでした。早速一橋大野球部OB会会長やOBとの会合においてそのことを報告致しました。以下にその詳細を述べさせていただきます。

最初に驚いたことは約60人の広商野球部員に加わった10名の一橋大部員が練習の中心に据えられて、いわゆる「お客様扱い」されていたことでした。バッティングでは最初に広商部員の3倍くらいの数を打たせてもらい、守備練習では広商部員をランナーにして繰り返しケースノック、ブルペンでは広商の捕手を相手に好きなだけの投球練習などなど、「これは広商の来年度の甲子園行きの足を引張ることになりはしないか？」というのが私の率直な感想でした。私の到着を待って延ばされていた一橋大部員のための夜のミーティングが到着した12月27日、たまたま見学に来られていた鳥取西高、倉吉北高の監督を交え7時から10時まで学生の質問に畠山先生が懇切丁寧に答える形で行われ、広商野

球の神髄の一端に触れた思いがいたしました。お土産に先生の纏められた「野球指導者研修—その問題と解答」という冊子を読み、今では私の枕頭の書として参考にさせていただきます。

最終日の29日には広商と警察の方々で毎年行われている忘年会に全員がお招きいただき、更に広島在住の一橋大OBの石川恭三(昭和23年卒)、中下 司(昭和42年卒)、山口武夫(昭和43年卒)の三氏も招待されており、改めてご配慮のきめこまかさを感じた次第であります。宴会の後さらに「スタンド リーズ」でこの交流に参加した歴代の部員の寄せ書きを見せていただき、広商での辛くも楽しい練習が彼らに大きなインパクトを与えたことが手に取るように実感できました。このような貴重な記録を30年にもわたって作り続けてくださった畠山先生はじめ歴代の部長、監督、コーチのかたがたの献身的なご努力に心から感激致しました。

この交流は畠山先生を中心とした広商関係者のご努力に負う所が圧倒的に多いように思われます。われわれ一橋大側としても今後ますます活性化し、将来の継続を期するためには選手ならびにOBの意識を高め、相当のエネルギーを注ぐ覚悟が必要と思われます。引き続き現役部員のご指導をいただくことに加え、この広商百年史を一橋大OBに多数頒布すること、今秋発刊予定の一橋大学硬式野球部75周年誌を広商OBに読んで頂くことが、最初の仕事かと思えます。更に広商野球部員が一橋大の入試を突破して、両校の野球部OBになっていただくことも交流の絆を強化する最大の手段と思えます。広商関係者の特段のご配慮をお願いいたします。

貴校が21世紀に向けてますます発展されることをお祈りしております。

(1999年5月10日記)

一橋大学との交流を振り返って

昭和五十二年広島商業高校卒業
 昭和五十六年立教大学卒業
 現在 広島銀行防府支店勤務 児島 正治

昭和四十八年。私が広島商業に入学したその年は、主将金光、佃一達川のバッテリーで春の選抜は準優勝、夏の選手権は優勝と、今にして思えば広島商業のまさに絶頂期でした。

その広島商業にここが、広島郊外の農村地帯から、親元を離れ合宿生活に入った私にとって、野球を通してではありませんが、名高い一橋大学の諸兄との交流は驚きでした。

当時の広商野球部部長の畠山先生が、一橋大学野球部のコーチをされたことが縁で交流が始まったと聞いておりますが、「一橋大学野球部員は広商で我々と共に野球を学ぶ」「広島商業野球部員は勉強を教えて頂く」ということで、野球の練習後の約二時間、練習疲れの眠気と闘いながら英語を教えて頂きました。

広島商業野球部の名前が全国に轟き、いろんなマスコミ取材の激しかったなかで、一橋大学野球部との交流格好の話題で、大きな注目を浴びたことも強く印象に残っています。

夏休みと冬休み、三年間計六回の交流でしたが、今でも鮮明に浮かんでくる場面があります。

練習中のある日、突然、雷鳴と共に激しい夕立がグラウンドの我々を襲い、全員急いで室内練習場に移りました。我々一年生は、きついグラウンドの練習から解放された喜びで頭がいっぱいとなり、雨に濡れた野球用具を拭きもせず、そのまま保管場所に格納し、室内シューズに履き替えていました。

突然、畠山部長の「集合！」の号令が耳に届きました。場違いな集合の号令に不吉な予感を覚えながら、全員急いで部長の前に整列しました。部長は言いました。「一橋大学野球部員の皆さんの姿をみるように！」皆さんは、雨で濡れた木・竹製のバットを一生懸命拭いておられました。

「しまった！」と思いましたが、もう後の祭りです。ご承知のように、木・竹製のバットは雨に濡れると重くなり、しかも折れ易くなります。雨や湿気に細心の注意を払い、大切に取扱わねばならないことは十分に承知していました。

それにもかかわらず、用具よりは自分たちの移動に心を奪われたのは、その年の全国制覇により、何もかもが非常に恵まれた環境を与えられたことで、知らず知らず天狗となり、用具を大切にしている心がおろそかになっていたからです。

我々より年上の大学生の皆さんが、黙々と用具の手入れをされている姿を前にして、非常に情けなく恥ずかしい思いで一杯になりました。

「広商で野球を学んで頂く」どころか、逆に「広商に野球に対する情熱とひたむきさを教えて頂いた」、今でも強烈な思い出です。

もう一つ強く印象に残っているのは、私事ですが、大学進学という人生の岐路で親身なご指導を頂いたことです。

甲子園出場を夢見て広商に入学した私でしたが、伝統校ゆえの上下関係の厳しさと野球レベルの高さに、入部と同時に驚きと後悔の連続で、野球部を辞めて進学一本でやり直そうか迷っていました。

ある日何気なく、当時四年生の高橋さんに相談したところ、「野球を続けながら進学を目指すことが立派である！また君の今の実力なら志望校に入れる！」と励ましのアドバイスを頂いただけでなく、進学に向けた具体的な勉強方法までご指導を頂きました。

商業高校の為、大学受験に関する情報をほとんど持たなかった私にとって、とにかく嬉しくて、大いに励みとなり、広商三年間、最後まで野球と勉学の両立を目指し頑張ろうと思えました。

結果、野球では三年生の夏に念願の甲子園出場を果たし（残念ながら準決勝で優勝した習志野高校に敗退しました）、勉学では第一志望の立教大学に一般入試で合格しました（当時は野球部推薦枠がありませんでした）。

入試直前の二週間、藤本さんには練習後の疲れた体にもかかわらず、家庭教師をして頂き、本当にありがとうございました。私の同級生の殆どは大学に進学しましたが、通常では経験できない一橋大学野球部の皆様との交流に負うところが大きかったと思っています。

末筆となりましたが、昭和五十一年広島商業卒の十七名を代表して、厚く御礼申し上げますと共に、一橋大学野球部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

今月も最後まで一球通信をご覧頂き誠にありがとうございます。

今季リーグは勝率の差で4部優勝を逃し、4部残留が決定致しました。本当に悔しい結果となりました。現在、今週末の最終戦に向けた調整と平行して新チームへの組織作りを進めておりますが、チームに足りない点を今一度見つめ直し春に雪辱を果たしたいと思えます。

秋季リーグを終えると一気に冬へと近づいて参ります。寒さが増してくる季節となりますが、ご自愛ください。

今後も硬式野球部への変わらぬご支援ご声援のほど、宜しくお願い致します。

2年マネージャー 浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com